



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 株式会社ステムセル研究所 上場取引所 東
 コード番号 7096 URL <https://www.stemcell.co.jp/corporate/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 崇文
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 茅野 圭 (TEL) 03-6811-3235
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家向け

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日~2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	2,144	—	218	—	228	—	146	—
2025年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 135百万円(—%) 2025年3月期第3四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	14.50	—
2025年3月期第3四半期	—	—

(注) 2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期第3四半期の数値および2026年3月期第3四半期と2025年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	8,028	3,056	33.2
2025年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 2,661百万円 2025年3月期 一百万円

(注) 2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	25.00	—	0.00	25.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	3,000	—	450	—	450	—	320	31.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
 新規 2社 (社名) STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD. 株 除外 一社 (社名) ー
 株式会社ミルケア

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期3Q	10,246,600株	2025年3月期	10,246,600株
2026年3月期3Q	176,412株	2025年3月期	75,112株
2026年3月期3Q	10,108,132株	2025年3月期3Q	10,246,544株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
 監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、2026年3月期第2四半期（中間期）より連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結会計期間及び前連結会計年度との比較分析はおこなっておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「あたらしい命に、あたらしい医療の選択肢を。」をコーポレートスローガンに、産婦人科施設との強固なネットワークを活用し、再生医療・細胞治療を目的とした「さい帯」や「さい帯血」等の周産期組織由来の細胞バンク事業の展開及びそれらの細胞等を利用した新たな治療法の開発を行っております。そしてこの事業基盤をベースとして、再生医療やフェムテック等関連する領域での事業開発及び投資等による、グローバル&サステイナブルな成長と社会への貢献を目指しております。

(事業の概況について)

当社グループは、株式会社ステムセル研究所において「さい帯」や「さい帯血」等の周産期組織由来の細胞バンク事業の展開及びそれらの細胞等を利用した新たな治療法の開発を行うとともに、子会社であるSTEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD.（シンガポール）及び株式会社ミルケアの2社を通じて、海外でのさい帯・さい帯血保管事業及び当社の事業に関連する新規分野の事業を推進しております。子会社における事業の本格化により業績への寄与が拡大する事から、2026年3月期第2四半期（中間期）より連結決算へ移行しております。

当第3四半期（10月～12月）の売上高は、第1四半期、第2四半期に引き続き四半期として過去最高*を更新し、当第3四半期連結会計期間（4月～12月）の累計売上高も過去最高*となりました。

当第3四半期連結会計期間においても、保管検体数の増加に向けて、産婦人科施設との連携強化およびWEB広告運用の最適化を継続的に実施し、妊婦及びそのご家族への認知拡大を推進しました。また対面のチャネルについては、マタニティ・ベビー関連イベント3件に出展するなど、顧客との直接の接点を増やす取り組みを進めました。

2024年11月に導入した新保管プラン「HOPECELL」は、さい帯血とさい帯の両方を採取することで、出産時にしか得られない貴重な細胞をより確実に保管できるサービスであり、市場への浸透が順調に進んでおります。

「HOPECELL」開始1周年を記念して、10年保管・20年保管のプランを対象に、2025年12月の下旬から2026年3月末までの申込者限定の「保管料5年間分無料キャンペーン」を実施しており、これに伴ってお客様からの資料請求数も伸長しています。

一方、売上原価は、今後の事業拡大を見据えた人員増強・賃金改定による人件費増加及び原材料価格の上昇により増加いたしました。販売費及び一般管理費については、シンガポール事業の立ち上げに係る費用のほか、広告宣伝費の増加、人件費の上昇が影響しておりますが、これらは将来の事業拡大を見据えた先行投資であり、今後は収益規模の拡大に伴い、利益率の改善が見込まれます。

2025年9月には、株式会社iPSポータルと共同で、さい帯血を用いた自家iPS細胞の製造及び保管プロセスと臨床応用に関する検討の開始を発表しました。当社の有するさい帯血採取及び保管のノウハウと、同社が有する自家細胞由来iPS細胞の製造及び臨床開発の実績を活かし、長期保管されたさい帯血を活用しiPS細胞を製造・保管するサービスの事業化を目指しております。

これらの活動の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は過去最高*の2,144,015千円、営業利益は218,505千円、経常利益は228,407千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は146,572千円となりました。

なお、当社は単一セグメントのため、セグメントごとの記載を省略しております。

*当社は2026年3月期第2四半期（中間期）より連結財務諸表の作成を開始したため、「過去最高」は、連結前の当社単体の経営成績との比較によるものです。

(東南アジア事業について)

STEMCELL INNOVATIONS PTE. LTD. においては、シンガポールおよびインドネシアの首都ジャカルタとその近郊を対象に、2026年6月頃のさい帯・さい帯血保管事業の開始に向けた立ち上げを進めております。営業、技術、IT、

管理等の各機能における必要人材の採用は概ね完了しており、最新設備を備えたCPC（細胞処理センター）、CCC（細胞保管センター）の稼働に向け工事を進めております。

シンガポールでは、さい帯・さい帯血保管に対する社会的認知度が高く、年間の出生数は約3万人、そのうち保管率は約20%と推定されております。一方、インドネシアにおいては、年間出生数が約450万人規模とされる中、経済成長が著しいジャカルタおよびその近郊を主要な対象地域とし、保管率1%程度を想定して事業展開を検討しております。これらを前提にすると、当該地域における潜在的な市場規模は、日本国内市場の3倍以上となる可能性があります。

他方で、シンガポールでは、現地の同業他社における検体保管上の事故を受け、保健省により当該企業での新規保管が停止される事例が発生しています。このような環境の中、当社は最新鋭のCPC・CCC設備に加え、日本で創業以来25年以上にわたり無事故で保管を行ってきたノウハウを最大限活用して、安全性および信頼性の高い保管サービスを提供し、シンガポール、インドネシア、さらには東南アジア全域へと市場への浸透を図ってまいります。あわせて、卵子保管等の関連領域における事業展開についても、検討・推進していく方針です。

（日本国内の関連領域の事業について）

株式会社ミルケアでは当社のさい帯保管者向けに「ファミリー上清」製造サービスを提供しております。当社が2021年にさい帯保管事業を開始して以降、2024年11月に新プラン「HOPECELL」を導入したことを背景に、さい帯の保管者数は増加しております。これに伴い、「ファミリー上清」製造サービスの認知も着実に拡大しており、新規申込に加え、リピートによる申込も増加しております。今後も当社グループのインフラおよびネットワークを生かし、周辺事業領域での新たな展開を推進してまいります。

（再生医療分野について）

FDA（米国の医薬品規制当局）の認可のもと米国デューク大学が実施している脳性麻痺児等を対象としたさい帯血投与プログラムにおいては、当社でさい帯血を保管されている方々の参加事例が増加しており、さい帯血を用いた治療への活用ルートとして一定の実績が積み上がっております。

再生医療分野における臨床研究としては、大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学教室と共同で進めている「自閉症スペクトラム障害（ASD）に対する自家さい帯血有核細胞を用いた治療法の開発」に関する臨床研究が開始され、既にさい帯血の投与が実施されております。また、高知大学におけるさい帯血を用いた脳性麻痺の臨床研究では、これまでに投与を受けた患者において運動能力の改善などの効果が確認されています。高知大学ではさらに多くの症例を対象とした臨床研究が計画されており、さい帯血を用いた再生医療の可能性が広がることが期待されます。

株式会社iPSポータルと共同で実施している、自家さい帯血由来iPS細胞の製造・保管サービスに向けた共同研究においては、当社で20年以上の長期にわたり凍結保管していたさい帯血から良好なiPS細胞が製造でき、保管されたさい帯血がソースとして優れていることが確認できております。2026年3月開催予定の再生医療学会で研究成果の一部を発表する予定です。

さらに、2025年12月には、学校法人国際医療福祉大学医学部眼科学教室および医療法人社団栄和会との間で、さい帯間葉系細胞由来培養上清を用いた新たな眼疾患治療の開発に関する共同研究契約を締結しました。本研究では、角膜上皮障害に対する有効性の検証を行い、将来的な臨床応用に向けた基礎的知見の獲得を目指しております。

（株主還元について）

当社は、2025年11月に、株主還元の充実を目的として株主優待制度を新たに導入することを公表しました。本制度は、初回の基準日を2026年3月末日とし、当社株式1単元（100株）以上を保有する株主の皆様へデジタルギフト（3,000円分）を進呈するものです。詳細につきましては2025年11月12日公表の「株主優待制度の新規導入に関するお知らせ」をご参照ください。

今後も、事業成長に向けた積極的な投資を継続しつつ、株主の皆様への還元を重要な経営課題の一つと位置づけ、当社にふさわしい還元手段及び水準の検討をさらに進め、株主還元の一層の充実を図ってまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は8,028,130千円となりました。このうち流動資産は5,430,914千円となりました。主な内訳は現金及び預金3,031,916千円、売掛金2,292,500千円であります。また固定資産は2,597,216千円となりました。内訳は有形固定資産1,201,954千円、無形固定資産203,640千円、投資その他の資産1,191,622千円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は4,972,063千円となりました。このうち流動負債は4,442,817千円となりました。主な内訳は、さい帯血・さい帯保管サービスの顧客からの前受金4,047,367千円であります。固定負債は529,246千円となりました。主な内訳は長期借入金393,603千円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は3,056,066千円となりました。うち利益剰余金が1,586,047千円、自己株式が△200,138千円、連結子会社に係る非支配株主持分が394,657千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期通期の業績予想につきましては、2025年11月12日公表の「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」にて公表しております連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	3,031,916
売掛金	2,292,500
原材料及び貯蔵品	58,476
前払費用	41,733
その他	10,618
貸倒引当金	△4,331
流動資産合計	5,430,914
固定資産	
有形固定資産	1,201,954
無形固定資産	203,640
投資その他の資産	1,191,622
固定資産合計	2,597,216
資産合計	8,028,130
負債の部	
流動負債	
買掛金	35,299
未払法人税等	23,895
前受金	4,047,367
賞与引当金	33,312
1年内返済予定の長期借入金	62,328
その他	240,614
流動負債合計	4,442,817
固定負債	
長期借入金	393,603
役員退職慰労引当金	47,808
資産除去債務	64,453
その他	23,381
固定負債合計	529,246
負債合計	4,972,063

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(2025年12月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	704,805
資本剰余金	596,939
利益剰余金	1,586,047
自己株式	△200,138
株主資本合計	2,687,653
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△23,451
為替換算調整勘定	△2,793
その他の包括利益累計額合計	△26,244
非支配株主持分	394,657
純資産合計	3,056,066
負債純資産合計	8,028,130

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	2,144,015
売上原価	821,868
売上総利益	1,322,147
販売費及び一般管理費	1,103,641
営業利益	218,505
営業外収益	
受取利息	14,087
為替差益	302
雑収入	1,475
営業外収益合計	15,866
営業外費用	
支払利息	3,940
支払手数料	795
雑損失	1,228
営業外費用合計	5,964
経常利益	228,407
特別利益	
固定資産売却益	550
特別利益合計	550
特別損失	
固定資産除却損	58
特別損失合計	58
税金等調整前四半期純利益	228,899
法人税、住民税及び事業税	73,366
法人税等調整額	11,021
法人税等合計	84,387
四半期純利益	144,512
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,060
親会社株主に帰属する四半期純利益	146,572

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	144,512
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△2,800
為替換算調整勘定	△6,079
その他の包括利益合計	△8,879
四半期包括利益	135,633
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	140,487
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,854

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

当社の事業セグメントは、細胞バンク事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	111,226千円